

旧伊藤伝右衛門邸

Former Ito Den-emon Residence

炭鉱王の歩みを映す大邸宅

筑豊の炭鉱王・伊藤伝右衛門の本宅が福岡県飯塚市に残されている。立志伝中の人物は、事業拡大に後押しされるかのように明治末期から昭和にかけて増改築を繰り返し、約2300坪の敷地内に25室の大邸宅を築いた。華族出身の妻・白蓮ともここで約10年間、暮らしている。



寄木張りの床やステンドグラスのある出窓、腰壁など、本格的な仕つらえの応接間。外国製部材を多用し、大正6年頃に増築された



炭鉱王・伊藤伝右衛門は女学校を設立するなど、故郷の発展にも尽力した。伝右衛門の人生を伝える遺産として邸宅は飯塚市有形文化財に、庭園は国指定名勝になっている

A luxurious mansion that shows the lifestyle of the legendary "coal-mining king"

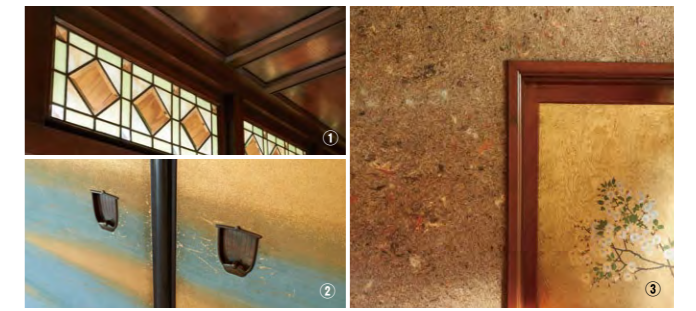
The famous former residence of Ito Den-emon is still standing in Iizuka City, Fukuoka Prefecture. Called the "coal-mining king of Chikuho," Den-emon was a self-made man who became a millionaire in the coal industry. Driven by the successful expansion of his business, his house underwent constant extension and remodeling from the later part of the Meiji period (1868-1912) to the Showa period (1926-1989). It grew into a huge mansion with 25 rooms built in a 7,600 square meter site. Den-emon lived for ten years in this mansion with his wife Byakuren, who was a poet born to a noble family.



創建当初に造られた本座敷。和室の格式を表す「真・行・草」の中で最も格式ある「真」の形を整えた書院造り。伝右衛門と白蓮の結婚披露もここで行われた



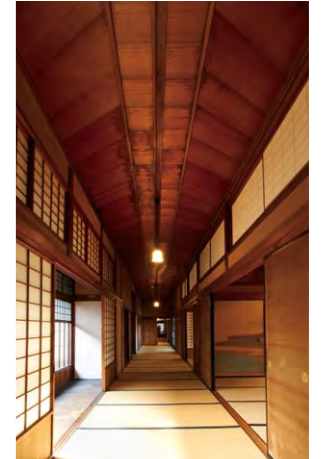
北棟東端の2階にある白蓮の居室。赤松の風合いを残した床柱や竹の落とし掛けなど、好みが生かされた数寄屋風の仕つらえ。次之間(写真奥)のふすまには銀箔が貼られている



① 応接間のダイヤ形ステンドグラス ② 本座敷のふすまの引き手は帆掛け舟の意匠 ③ 書斎は4室ある洋間の一室。絹帯の織目を塗り込めた布壁と金箔地に花を描いた板戸が特徴



① 茶室の駆け込み天井に似た次之間の天井 ② にじり口、火灯口を模した2階入り口付近

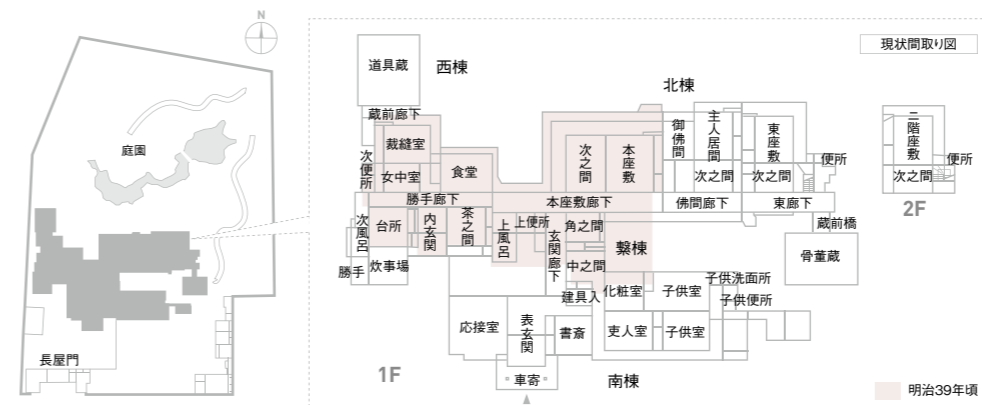


北棟から西棟へ建物南側を貫く廊下。天井が傾斜していると錯覚を誘う矢筈(やはず)天井

飯塚市幸袋の長崎街道沿いに伊藤伝右衛門邸が創建されたのは明治39(1906)年頃。社会は日露戦争による好況下で、貧しい暮らしから身を起こした伝右衛門は炭鉱事業を拡大、社会的に進出した頃であった。邸宅の本座敷は15畳、おさ欄間や四方柱目の床柱をしつらえた格式高い書院造りで12畳の次之間もあった。大正6(1917)年、世間が第一次世界大戦のもたらした空前の好景気に沸いていた頃、大正2年に続いて増築を行った。この増築には2つの大きな変化がある。1つは

南棟を建て増して表玄関と洋式の応接室を造ったこと。イギリス製タイルを貼ったマントルピースやステンドグラスのある応接室は、西洋文化を取り入れるためにしつらえたものともいわれ、他の炭鉱主の邸宅にも見られた。2つ目は、明治44(1911)年に後妻を迎えた柳原燐子(白蓮)のための普請。白蓮は大正天皇の従妹にあたる。その妻のために京都から職人を呼び、本座敷のある北棟の東端に2階建て4室を増築した。2階の座敷は数寄屋風で、随所に繊細な装飾が見られる。また、北に広がる庭園

を望むのに格好の位置であった。次之間を茶室の体裁としたのは結界を意識したものと伝えられており、使用人は入室せずににじり口風の小窓で用を足したという。その後、昭和に入って福岡市の別邸から長屋門を移築。北棟南側を曳家して南棟につなげるなどの変更を行っている。伝右衛門は炭鉱主の印象から想像される豪大な建物ではなく、細部にまで目の行き届いた上品な邸宅を建てており、建築技術や装飾など、その価値は高く評価されている。



用語説明
【おさ欄間】 縦の棧を細かく、横棧は中央に3筋、上下に各1筋ほど入れた欄間
【曳家】 建造物を解体せず、全体をそのままジャッキなどで持ち上げて別の場所に移動させること